

報道関係者各位
プレスリリース



2025 年 08 月 26 日

一般社団法人 日本分析機器工業会
一般社団法人 日本科学機器協会
公益社団法人 日本生物工学会

**JASIS 2025／第 77 回日本生物工学会大会連携
日本発の研究機器開発を
世界に飛躍させるための産学アライアンス企画**

一般社団法人日本分析機器工業会(JAIMA、所在地：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5-16、会長：足立 正之／株式会社堀場製作所 代表取締役社長)と一般社団法人日本科学機器協会(JSIA、所在地：〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 14-9、会長：長谷川 壽一／英弘精機株式会社 代表取締役社長)は、公益社団法人日本生物工学会(事務局所在地：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1 大阪大学工学部内、会長：清水 浩 大阪大学大学院情報科学研究科 教授)が開催する第 77 回日本生物工学会大会と連携し、アライアンス企画として、一昨年、昨年に引き続き第 3 回の産学連携シンポジウムを開催いたします。

20 世紀終盤に日本発の技術で製品化された DNA シークエンサーは、2003 年国際ヒトゲノム解読計画を完成に導きました。日本は古来から発酵の科学を世界に先駆けてリードしてきており、蛋白質の科学技術基盤を保有しておりますが、21 世紀に入り、現在に至るまで、さまざまな DNA 研究における先端技術は、日本からではなく海外で製品化され、バイオサイエンスの発展に大きく貢献してきました。しかしながら、現在の状況は ICT 技術の進化に AI 技術の実用化が加味され加速的に世界を変えようとしています。そこで、昨年に引き続き産業界が研究者側の意見を優先的に取り入れてスピーディーに開発できる環境を構築することが急務と考え、本プログラムを計画しました。

第 77 回日本生物工学会大会(9 月 10 日(水)～12 日(金) 広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21) において 11 日(木)午後に開催されるシンポジウムに日本分析機器工業会(JAIMA)会員企業が参加し、さらに同日夕方「JAIMA／日本生物工学会 共働ピッチ・ネットワーキング」～生物工学と分析産業の間で「変革の種を見つける交流会」～と題し、産学連携ネットワーキング会議を開催します。また、その前週に開催される JASIS 2025(9 月 3 日(水)～5 日(金)幕張メッセ)

トピックスセミナーでは、日本生物工学会がセミナーを開催いたします。

各企画内容の詳細は下記の通りです。

【第 77 回日本生物工学会シンポジウム概要】

日時：2025 年 9 月 11 日(木)9:30～11:30

場所：広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21 6F G 会場(603 講義室)

タイトル：

生物工学における DX 推進に向けた技術革新

概要：

近年、最先端のバイオテクノロジーは高性能化された革新的研究機器、技術のもとで生み出されておりますが、デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進していくためには、さらなる技術革新が必要です。

日本生物工学会バイオ計測サイエンス研究部会は学会本部と連携し、日本分析機器工業会(JAIMA)会員企業と連携した産学連携の取り組みを行ってきました。その中で、バイオテクノロジー分野において必要とされるニーズを掘り起こし、日本分析機器工業会(JAIMA)会員企業のシーズと結びつけるための議論の場として、本シンポジウムを実施させていただきます。

プログラム：

1. 「DX 推進に向けたメタボローム分析技術の開発」

馬場 健史(九州大学 生体防御医学研究所 主幹教授)

2. 「ライフサイエンスのための最新クライオ FIB 技術：凍結生体試料の高精度加工と三次元観察」

河野 林太郎(日本電子株式会社 EP 事業ユニット EP アプリケーション部 FIB グループ)

3. 「ユーザーコミュニティによるメタボロームデータ共有および利活用の取り組み」

松田 史生(大阪大学大学院 情報科学研究科 教授)

4. 「IC または IC-MS による培地中の有機酸および無機塩の分析と Gallery ディスクリート方式自動分析装置を使用した酵素分析の自動化」

佐藤 万由子(サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社)

【第 77 回日本生物工学会 共働ピッチ・ネットワーキング概要】

日時：2025 年 9 月 11 日(木)

17:00～18:00 プレゼンテーション

18:30～20:30 ネットワーキング交流会(若手交流会に合流)

場所：広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21 4F シアタールーム

(プレゼンテーション)、2F リーフガーデン(ネットワーキング交流会)

概要：分子生物学の進化を起点に世界のバイオビジネスが加速する中、蛋白質の生命科学には、多くの未踏領域が存在します。また、発酵を基盤とした日本の技術と産業は、歴史的に見ても世界的ポテンシャルを有し、変革への期待が高まっています。基礎から応用へ社会的にインパクトのある新たなブレークスルーを生み出すには、産学が連携したオープンなディスカッションが必須となっています。

今回は、国内に研究開発・製造拠点を持つ分析機器企業の社団法人である日本分析機器工業会(JAIMA)の協力を得て生物工学分野における産学アライアンスの促進を目的とした「共働ピッチ・ネットワーキング」を開催いたします。

交流会の構成は、前半に4名の講演者による、現状課題を克服する画期的技術等のプレゼンテーションをいただき、後半は講演者と若手のオープンな交流会による会話の場を提供し、アライアンスを生む機会を創出します。

プログラム

1. はじめに

上平 正道(九州大学大学院 工学研究院 教授)

2. 「溶液中の抗体分子/ウイルスベクター/分子複合体の直接分子像観察」

松本 崇(株式会社リガク 応用技術センター)

3. 「研究室自動化の第一歩：柔軟な発想でつくるスマートラボ」

若杉 健朗(ヤマト科学株式会社) 塩田 晃久(エーエムアール株式会社)

4. 「人工タンパク質による薬物送達と細胞操作」

曾宮 正晴(大阪大学 産業科学研究所 准教授)

5. 「代謝酵素の局在変化による代謝調節機構の解明と利用」

三浦 夏子(大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授)

【JASIS 2025 トピックスセミナー概要】

日時：2025年9月3日(水)～5日(金)(本セミナーは9月4日(木))

場所：幕張メッセ・国際会議場コンベンションホール B

タイトル：

生物工学における DX 推進に向けた技術革新

プログラム：

1. 日本生物工学会の紹介

上平 正道(九州大学大学院 工学研究院 教授)

2. 「GX を加速するバイオものづくり基盤 ―シングルセルメタボロミックス技術の開発」

竹山 春子(早稲田大学大学院 理工学術院 教授)

3. 「細胞製造 DX に向けた細胞培養手技計測の取り組み」

蟹江 慧(近畿大学 工学部 准教授)

4. 「ディープラーニングによる細胞機能解析システム」

上平 正道(同上)

【関連情報】

第 77 回日本生物工学会大会

<https://www.sbj.or.jp/2025/symposium/> (シンポジウム)

https://www.sbj.or.jp/2025/press_release/ (プレスリリース)

■問い合わせ先

広島大学大学院統合生命科学研究科生物工学プログラム内

日本生物工学会第 77 回大会実行委員会

E-mail : sbj2025adm@ml.hiroshima-u.ac.jp

JASIS 2025

<https://www.jasis.jp/>

E-mail : ito@jaima.or.jp